

平成 11 年 3 月 26 日

地域で進む緑のまちづくり

雑司ヶ谷霊園生垣・南長崎花咲公園あいつぎ完成

この春、豊島区では緑のスポットが新たに二か所誕生した。

ひとつは、災害時の広域避難場所に指定されている都立雑司ヶ谷霊園（南池袋 4-25-1）の周辺をめぐる万年塀を改修した生垣で、もうひとつは南長崎 3 丁目の旧児童遊園を拡張し新たに整備された南長崎花咲公園（南長崎 3-9-16）。ともに、地元住民らで組織するまちづくり協議会が計画・検討に参加してできあがったもので、それぞれの完成を記念して、今週末の 27 日（雑司が谷）と 28 日（南長崎）に各まちづくり協議会主催による式典が行われる。

雑司が谷地区が平成 8 年度に東京都の防災都市づくりの重点地区に位置づけられた際、都立雑司ヶ谷霊園周囲の万年塀の危険性が認識され、都では 10 年度より 3 ヶ年をかけて万年塀を改修する計画を立てた。これに先立つ昭和 59 年、同地区住民で組織する「雑司が谷地区まちづくり協議会」では、墓地の外周の万年塀を撤去して緑豊かな散策道を作ることに、防災避難道としての機能と生活環境の向上を図るインナーリンク構想を提案、同 62 年区長に実現に向けての提言を行っていた。今回の都の改修計画にあたり、同協議会は昨年この構想に沿った整備をしてくれるよう都に要望書を提出、こうした地元の声が反映され、当初は鉄板でのフェンス化であった計画が生垣を中心とした（墓地内部に余裕のない場所についてはツタをはわせた緑化フェンス）整備に変更された。今年度の第一期工事では、墓地の南面延長約 500m の内ほぼ半分がツゲやサザンカなど緑豊かな生垣に生まれ変わった。

また、この生垣の維持や、周辺の清掃などについては、地元住民がボランティアの会「緑のこみちの会」を結成して行っていくことになっており、明日の完成記念式典では、同時に同会の結成を祝うイベントも行われる。

一方、区の居住環境総合整備事業実施地区である南長崎 2・3 丁目地区は、一人当たりの公園面積が 0.49 m²で、他区に比べ低水準である区全体の数値 0.72 m²よりもさらに低い。また、同地区の住宅戸数密度は 202 戸/ha、老朽木造棟数率は 64.4%にのぼり、都の「地震に対する地域危険度測定調査報告(第 3 回)」により、他の地区と比較して危険度の高い地区として報告されている。こうした住環境の改善、防災性の向上をめざし、平成 7 年に結成された「南長崎 2・3 丁目地区まちづくり協議会」でも、昨年区に対し「防災緑道及び緑道に関連する広場整備」の提言を行っている。

今回完成した南長崎花咲公園は、既存の児童遊園（約 663 m²）の隣接地を用地取得し、新たに約 1,315 m²の公園として整備したもので、そのスケールメリットを活かした設計により、住民に安らぎと潤いをもたらすと共に、防災広場としての機能もあわせもつ。その計画案作りには同協議会も参加、地元住民にアンケートをとり設計プランのアイデアを募集する等、地域の要望を取り入れながら、4 回の検討会を経て計画案をまとめた。

防災及び町会や商店会の催しものにも対応できる他目的に使える広場を中央にとり、子どもの遊び場としての利用も考え、子供のための広場、憩いの広場等、目的別に使えるゾーン分けの工夫がなされている。また、地下には 100t の防火貯水槽も整備されている。公園名についても協議会の発行する「まちづくりニュース」で募集、春のオープンにふさわしく、「南長崎花咲公園」と名づけられた。

詳細:まちづくり推進課